

民族誌からよみとく文化としての健康

国立民族学博物館 野林厚志

人間の生活や社会のありかたをフィールド調査によって探究してきた民族学や文化人類学の知見は、人間にとって健康とは何かを考える手がかりを与えてくれる。この報告では民族学や文化人類学の分野で蓄積されてきた民族誌の中から、我々が健康について考えるとき、人間のどのような行為を見ていくことが有効なのかを考えてみたい。

健康は病と深く関わっており、疾病の際にとられる呪術や薬草を用いた治療行為は健康を考えるうえで重要な手がかりとなる。一方で、文化的に規定された摂食行動も、顕在化しない健康観と多少なりとも関わっている可能性があるだろう。本報告では特に食の規制を中心に考えてみたい。